
FANBOX
Exclusive contents updated!
・過去編完結版


ボロボロにされる
エルフさん
R-18
Adult only






本当にいましたね
でも大丈夫
なんすか？
領主さんたってのご依頼
だから仕方ねェんだわ
「森の賢者」なんて言われたエルフだが
今や個体の力は弱まってただの田舎の部族と
違いねェ まぁラクな仕事だわ


人払いのスクロール
詠唱終わりました
直に完全効果になります
ご苦労さん
まぁもう少し
様子見だな
キモちぃ～♡
しかし危機感ねぇよな～
あの見た目でも40年は
生きてるだろうと思うが…
人目のないところに独りとは…
よほどの温室育ちか。


気持ちよかった～
早く帰らないと皆心配するし長居はできないけど…
ン…そういえばさっきからやけに静か…鳥や虫の声が全然しない…
スン
スン…
ぼやっしねえでさっさと睡眠魔法かけろや…
小娘でも魔力の強いエルフだぞ
は、ハイっ
!?
ガバ


イルダ人の男が2人！
エルフ相手にこんな人数
風魔法ですぐ吹き飛ば…
むぅぅんンンン!!!
体に力が…
こんな呆気なく…
ドサ…
ドッ
エルフとはいえ戦闘経験がなけりゃ
こんなもんだわなァ　得意の魔法も
詠唱させずに距離を詰めりゃ終わりだ
ドッ
ドッ
誰も知らない場所だと…
思ったのに…よりによって人間が…
眠い…だめ…だめ…


ガタッ
ここまで来れば里の耳長どもにもわからねぇだろ…さて 品定めだ
暫く揺られていたのにまだ体が動かないっ こんな強力な魔法を人間が？
「養成所」に送るのには申し分ないクオリティだ今までで一番かもなァ
グィッ
んー…キレイな顔だ…イライラするぜ…この金髪でかい目玉 下品な耳しっかりエルフだな
…見てるうちに俺の頭を焦がしたヤツを思い出してムカついてきたな…
味見しておくか。
!?


よォ 何ボサッとしてんだ
お前もこっち来て検品の目を養えやコイツ一級品だぞ
ちがっ…！ これは水浴用の薄手なのに…
下品な服だよなァ？ エルフってのは先祖代々露出狂の種族か？
お望みどおり丸裸にしてやるよッ…と！
ぷるん
ぷるんっ
納品物にこんな事して大丈夫なんすか？
…といつつ脱がし始めますけど
ン？…あぁ 問題ねぇよオレの担当分はな…しかしデケェな！
うはは
痛いッ…！
ギュッ…


このままイルダ人と交わってしまったら掟を破ることに…
「検品」ということはおとなしくしてれば商品に傷は付けない筈…
ハァ…
ここは耐えて隙をみて首飾りを使って逃げ出さないと
ハァ…
…
ギョロ…
シーン…
あー…体は問題ないかなり高値がつきそうだ
？
次はコイツの中身の確認だなァ


ズッ…
どんな仕事でも「素直さ」ってのは大事だよなァ？
オレも一応脱ぐか…
嘘ッ…！そんな…「検品」のハズじゃ…！
今ここの場で…！？
逃げる隙を冷静に伺うような従順さの欠片もねェ奴ってコトは耳見りゃわかんだよ…
生意気な耳長（エルフ）にはよォ…心底コイツでモノを理解（わか）らせたくなるぜ
ンン…
腕は動かせないけど…もう首飾りを使わないと手遅れになる…！
アアアア


いや…でも…
ここで首飾りを使っても逃げられる保障がないむしろ
…
まァとりあえず咥えてみろ
よっと
一度おとなしく言うことを聞いて…
むぐラッ!?
ガッ
ひどい…汗とイルダ人の臭い…耳も…痛い…！
ふん　意外と従順だなしっかり咥えるじゃねぇか今までのは必死に抵抗して面倒だったがな…
うっ…
おえ…
私以外にも攫われた人達が…となるとエルフの扱いはかなり…
グポッ
でも必ずどこかで隙を見せるはず
それまでは…！
うぇ
ぐぽっ
ズッ
んぐっ


もっと喉奥でしっかり締めあげろよ…
イマイチだなァこうすんだよ…ど下手クソが！
…どうして
…なぜ
喉塞がって
息が…できない…
こんなモノみたいに…
…どうして…
イイ具合だ…
オラッ射(だ)すぞッ
耳長の豚(ブタ)が！こぼさずしっかり飲み込めッ！
こんなひどいこと…
あーあァ…吐き出しやがって
もったいねーなァそんなんじゃ「養成所」でやっていけねぇぞ？ン？おい…ったく…


バロワズさんの番、終わりですか？
オレ、エルフとヤったことないんスよ！
コイツ、お先に試してみちゃって大丈夫ですか？
あ？
え？
今だ…！
てめェそれが耳長にとってどういうことか判ってんのか…？
ガシ
うわぁっ！
なんだこの光はッ…！
うまく隙をつけた！
猿ぐつわは外れてる…！このまま詠唱を続けて…
ブギッ
つたくよォ…やっぱりか
身の程を知らねェんだよな耳豚はよォ…！


直前で遮ってやったろうが…さっさと捕まえてこいや
は…はいッ…！すんません！糞ックラクラする…
早漏のクセに偉ぶりやがってメンドくせえ
（光の矢）
射出!!
オイ！てめェ！なんの魔法をッ
ハァ
ハアッ
（清風よ…）
あッ……当たっちまった！牽制のつもりが…
ミッ
耳ッアッ
私のッ
ドサッ
痛イッ


熱い…私の耳、全部なくなっちゃった…？
あ、あぁ…
ぅあぁぁぁぁぁ！
ザッ
ザッ
な、ァ悪かったよッ初めての類の仕事で緊張して手元が狂っただけ…
俺の獲物に手を出すようなヤツにはなコレが報酬だ…ッ
ザッ
ひ、ひかっ光…
ドゴッ
ドゴッ
ドゴッ


クンカッ
ペッ
ガッ
グチュッ
目の前が真っ暗…
耳も利かない…
オイ
エラいぜ お前も
逃げてたら捕まえて
あんな風に潰しち
まったかもな
ヒッ…
俺ァキレると
我慢ができねー
タチでね
ドッ
ドッ
ドッ


どれだけ喚こうが
ガシッ
なんでこんなッ
ムダだ
ひぎぃぃッ…誰かぁ…だれかぁ
助けてお母さん
あのバカの人払いはまだ効いてるし
俺はエルフの思考パターンは熟知してる
逆らわなければ命は奪わない…
大人しくじっとしてる事だ
あッ
ってワケでおめっとさん
ボボッ
お前はもう高潔なエルフでもなんでもない
ブチ…
ブチブチュ…!
アアアア
おが…


許嫁にやるつもりだった操だろ？
前の奴は名前まで呼んで泣きわめいてケッサクだったぜ
手に婚姻の墨が入ってねーだろ…
初めてなの…
…なんで…知って…
どんな形であれ・・・・・・掟破りの傷モンだお前は追放されたも同然だ
マジで頭悪ィな…まぁ処女かどうかなんぞどうでもいい…
ああ…
前に逃げ帰ったバカは門前払いの挙句に狂って死んでったぜ！つくづく冷てェ一族だよなァッ！
嘘…襲われただけなのに…？
もう私…帰れないの……？


はァ…気に入らねェなまだ自分に可能性があるような目だ
そうだな…
ギッ!!
ビタッ
ヴァアアアア
ヴジャッ
俺だって不本意だよ
だが言葉じゃ足りない家畜レベルの低脳民族には「痛み」を使わないとな
俺もお前の同族に親兄弟と頭を灼かれた時ァ同じキモチだったぜ…
それによォ
ヴジュッ
ヴジュッ
ヴジュッ
ブチッ
ミチミチ
ブチッ
・・・・・薄汚ねぇ血で股ァ汚されて泣きてぇのはこっちの方なんだわ


もうテメェはこっからいくら傷つこうが大した金にならねェんだ…
生意気な態度とってみろ…今度はマジでちぎるぞ
腹ァ潰れるほど犯し尽くしてやる覚悟しとけ
ズズズ
ズズ
無駄だ
ブブ…
ボボ…
おえ
ゴェッ
ボッ…
ン…口さえ塞いじまえばよォ
プハァ…
…この通りだ精霊には届かない
ハァ…
ドッ
ドグッ


お得意の魔法も
使えず
カツッ
自慢の体を嬲られ
ボディイイイ
貞操を穢され
ドチュッ
ズボッ
全てを失い
苦悩しろ
何黙ってんだ
豚は豚らしく…
もっと…下品に
哭けッ!!
バズン
ガキッ
ガキッ
未来も尊厳も
しゃぶり尽くされ
てめェらの傲慢を思い知れ…
ズボボボ


あっ
はッ
ブっ…
あマッ
ブっ
あっ
へっ…全く
良いザマだな
テメェが逃げなければ
アイツも俺に消される事も
ここまでする気も
なかったんだよなァ…
ブぐっ
あブっ
おいテメェ
聞いて…
…。
イラァ…
あ？


てめェら耳長は…ッ
見苦しく喘いでりゃいいんだよ…オッ
メスは犯し尽くしてカスみたいに売っ払って
オスは殺して…根絶やしだ…
オラァ！
もっと気合入れて必死に締め上げろや！
首が締められ…息…ッ
呼吸…ッッ
ギチ
ギチ
ギチ


あー…
うぐ…
かッ…
ヶほっ
やっぱエルフには首絞めだよなァ…テメェら全員マゾなんじゃねぇか？
ウバヤッ!!
イボボッ
ヴァアアアアアッ
トプッ
じゃ一発膣内で出すわ
ズッ…
ビュッビュッ
ドプ
ビュルルルッ
ドクン…
処女マ●コでしっかり味わえや下等な異種族のザーメンをよ…ッ
ビクッ
あ…ぅぇ…
なンデ…わたしが…
ビュッ
ビュッ
どぷっ
どぷぷ…
どろぉ…
ゴポ…
…はァ？しっかり子宮で飲み込めよだらしねェーなー


うぉ…
こんな…こんなこと…
ズルルル…
あー… 結構出たな
ま、一発でハーフエルフってこたないだろうが
私が…
クハッ！
膣でゲップしてんじゃねーよ マジで下品だな笑
私が…
エルフだから
こんな…？
ロォ…
ピク…
ピク…
ようやく大人しくなってきたな…まぁ…諦めが肝心だわな
これがエルフのあるべき姿だ…
よォく憶えとけ
ぐす…
う、おぇ…




ヒリュッ
ヒュルッ
ビチャ…
ズニッ
ズドッ
ズッ
ズドッ
ズドッ
それから火傷の男は
何度も自らの怨嗟を
ぶつけるように…
うぇっ
ゲホッ
ゴホッ
うぐッ
あぐっ…
私の身体を弄び欲望を
吐き散らし続けた。

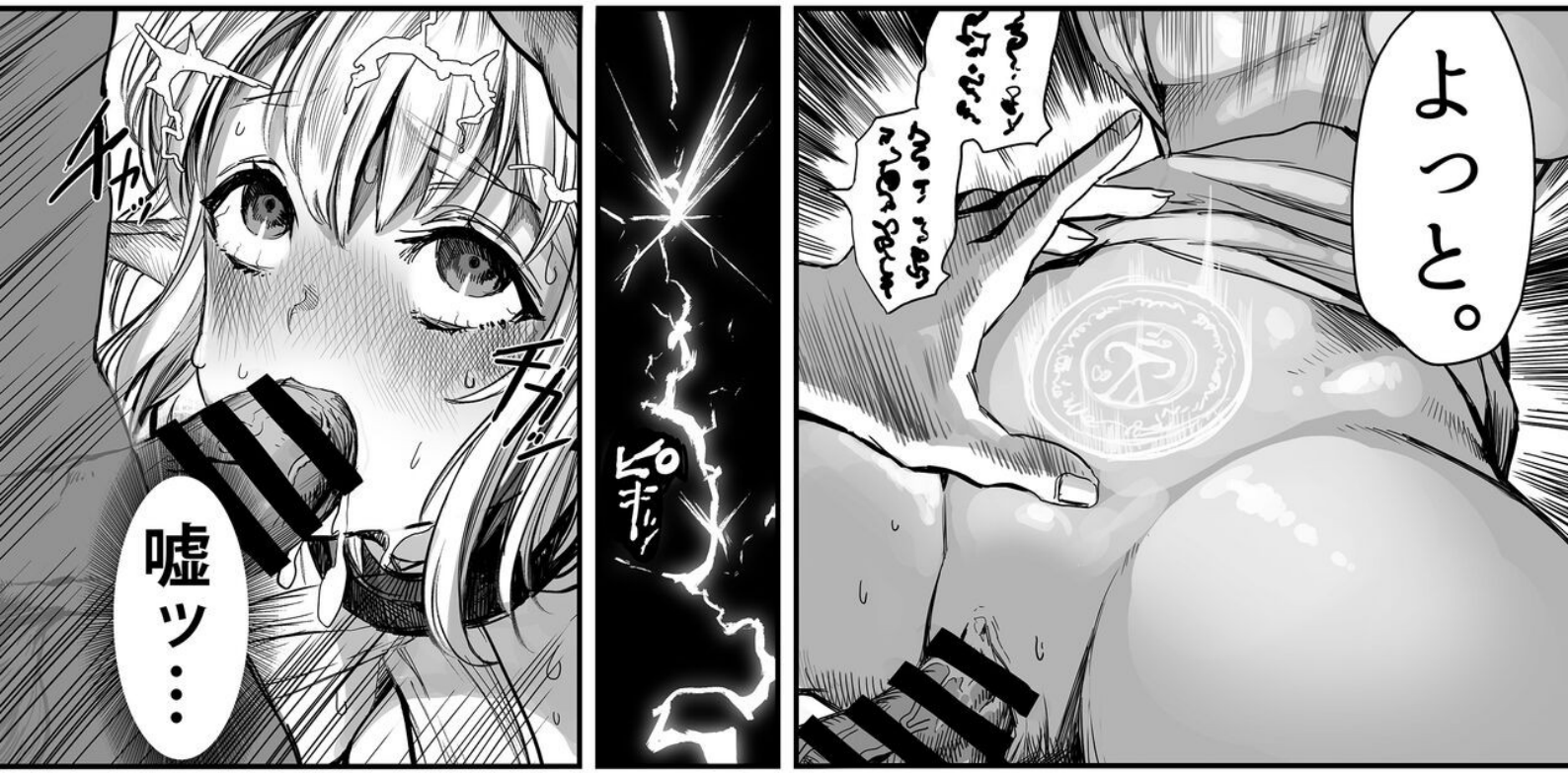

なに今更咥えるの嫌がってんだよ
も、もうやめてくださっ…
はー…めんどくせぇなまぁこれだけ犯せば抵抗力も弱まってるか…
どれ…
呼吸を止めとけ
男は意識束縛の魔法を得意としていたらしい私は心に植えつけられた「恐怖心」をトリガーに
まんまと男の支配下に置かれてしまった。他の攫われた人達もきっと同じように傀儡同然ににされたのだろう。


自意識は状況を拒絶しているのに身体は男の望むように動く感覚はまるで自分の肉体という檻に入れられたようで…
ビッ
おぶぇッ
ばすッ
ばすッ
ばすッ
容赦なく打ちつけられる腰への衝撃と絶望感から頭の血が引いていき…
気がつくと私は窓のない牢獄のような部屋、その冷たい石床に服を着て横たわっていた。


うぅ…
ここは…
それに
服が…
あれは夢…？
フッ
な？言った
とおりだろ
この後に及んで現実も
受け入れられないほど
低脳でしかもキズ物
・・・・・
変態の方の領主に
「土嚢」として納品する
までは何しようが自由だぜ
!!


いやあああッ
カポ
そんじゃあ
ま 皆料金分は
目一杯可愛がってやれ
バロワズの野郎
信用ならねぇが穴の
調達の腕はいいよな
まぁ当然ながら
アイツの使用済み
ってとこにも
目を潰ればな
ビュルッ
パ
まったくだ
アイツの手に
掛かったのは
抵抗もしないしな
ズッ
ズッ
パ
しかし今回の
奴もなかなか
具合がい…うッ！
贅沢言っちゃ
いけねぇ 訳ありとは
いえエルフだからなぁ
何最初から膣出し
してんだよオイ！
ビュヴルルルルビュビュ～～


よっ…
いまいち反応悪くて萎えるな…
いつものアレやればいんじゃね？
あー…馬の種づけ用のヤツな
！？何をっやめてッ！
はいはい…気持ち良くなるおまじないだ…
おーい…お口がお留守だぜー


よっと。
ピヨッ
チカッ
嘘ッ…


入口がヒリヒリする…
ガポッ
ゴボッ
こんな簡単な魔法…普通なら絶対かからない…
キュウウウウ…
なんで…
奥を掻き回して欲しくなんか…
ダ…メ…
ズジュルウ…


ビュルル
ドプッ
ビュー
ビュルル
ドクッ
タパッ
あぁぁぁッ
ドクッ
カタ
カタ
カタ
ドクッ


熱い
もうイヤだ
快感が波みたいに
クル
エルフ以外の
私の大切な
ドイヒドイヒドイヒドイ
といひどいひどいひどいひ
こんなの知らない
頭い電流が
ドド
熱い
壊れる
刺激が強すぎ
意識が保て
ビクッ
ビクッ
突くたびにイッてんぞこのムッツリエルフ
クン
催淫した途端クソ雑魚ま●こすぎるだろ…
ドラ


それから彼らは
まるで子供が
玩具で遊ぶように
ビュルッビュルルルッ
私の身体を
嬲り尽くし
はじめ…
ありと
あらゆる
穴や隙間を
見つけて
私の尊厳を端から
こそぎ取るように
好き勝手に
奪えるものを
奪っていった


ドクッ
呪文による快楽が薄れ遠慮なく注がれる劣情を感じながら私は捕まった一日で失った「何か」の大きさに気づき…
パン
パン
パン
ドクッ
ようやく自分がもう戻れない何処かにいることを理解したのだった…
ドクッ
ビュルルルッ
ドクッ


おぉ…お疲れさん
汚えし精子くせーが
豚にはお似合いだな
どいとけ
ボゴォッ
いいか
お腹…
ウッ
苦しい…
オェ…
テメエら
エルフは
ゴミだ
でもよぉ
なんかまだ
「終わってる」
って感じが
しねぇよなぁ
わかっちゃいる
だろうがゴミっ
てのはコレ以上
増えないように
ヤバッ…
うっ
えっ…？
キィ…
未来を間引く
必要がある…
そうだよな？
だから


ヒッ…
こうすん…だよッ！
ボ
うあああああッ…！
ビリッ


一発一発自分がゴミであることを自覚しろ
あ…うぁ…
やめ…
ドガッ
おぐ…
ドッ
うっ…
ドッ
ゴッ
……
ボッ
うわ…えぐ…
ズッ
なんか勿体ないよナ？…
オラ…ッ
ズチュッ
多分もう孕む心配もねぇぜ
感謝しなゴミなりに
グチュッ
ズッ


ヒュルルルルルル
ヒュ


ピクッ
ピクッ
外ッ腹と膣中から同時に潰されてよォ
気持ちよかっただろ？ああ？
どうだカスが…
俺はもっともっと耳長を捕まえて思い知らせてやるよ…
俺はあの変態と話つけてくるぜ…『耳欠けは抵抗するな』
じゃあなだがドン底は…
まだまだ先だぜ…
こんなのうそ…
いやービビったな…流石にアイツは飛んじまってるよ
ウソ…もう赦して…
俺らもハンパやるとアイツに何されるかわかんねぇ少々乱暴でもしっかり躾けなきゃな…
バーカw おめーはただ出し足りないだけだろw
これ以上
全員まだギチギチの癖によく言うわ…
触らないで…
まぁこんくらいで満足するなら盗賊なんてやってねぇよな
違いねぇ
うっ…
ううううあうううううう


それからのことは
もうあまり記憶にない
ハァ…
ハァ…
ハァ…
ヨォ
キズ耳…
テメェに
お客さんだぜ
でも私がどう思おうが
何をされたかなんて
この火傷の男には関係がない
前のヤツは
もうダメん
なったのか？
あぁ…少し
冒険し過ぎたよ
反応が鈍くてね
ただエルフという民族に
対して復讐をするために
見つけては地獄に落とす
ことしか興味がないらしい


バムーシュの旦那よ
ダメージの具合はこんな
感じでいいのか？
おぉ…
おおお
おぉ…
すばらしい…
見たまえよ…
彼女の絶望と苦悩に満ちた表情…
だが自由の翼をもがれ
ながらも一縷の望みを
捨てていない瞳…
胸の奥底で意地らしく
輝く宝石のような魂は…
粉々に砕かれ我輩の
舌を悦ばせる運命のようだ
誰か…
助けて…
お願い…
私の願いは…
一切届かなかった
イィイィイィ…



こうしてエルフの少女は自分の記憶を
失うほどの苦痛をその身に受けた。
もはや誰からも手を差し述べられない、
成れの果てのような状況だったが
彼女は生きることをやめてはいなかった。
ある薬売りの男がそこへ現れるのは
もう少しだけ先の話だ。